

一般社団法人
日本看護系学会協議会
ニュースレター
JANA

第29号

2022年3月25日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局)〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル9F(株)毎日学術フォーラム内

一般社団法人日本看護系学会協議会

TEL:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555

E-mail: maf-jana@mynavi.jp

危機に立ち向かうための看護学



一般社団法人 日本看護系学会協議会

会長 萱間 真美

2022年2月、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻という衝撃的なニュースが世界を駆け巡りました。私たちの生活や仕事は、新型コロナウイルスのパンデミック以来、2年余にわたって既に大きな影響を受けています。1月にはトンガの大規模な火山噴火が起きました。地球上では、物理的に離れていても、あらゆるコミュニティが影響を免れないことを痛感し、強い無力感にも襲われました。軍事侵攻、パンデミック、自然災害に、私たちができることは何もなく、これからも何もできないのではないかという思いに圧倒されそうです。

そのような中、あるウクライナ人の言葉が心に響きました。「全ての人たちが、もっとこのことを話してほしい。話すことを怖がらないでほしい」。私たちは、いくら話し合ってもどうにもならないと認めることで、さらに強い無力感を感じるのが怖く、話題にすることを回避したいと思ってしまう。そして、この気持ちには、既視感があります。看護の現場で、回復の見込みがないと思われる人たちとの対話で、自分は何もしてあげられないという無力感が辛く、何を話して良いのかが皆目わからず、沈黙にも恐怖を感じ、対話の場を避けようとする気持ち、それによく似ているのではないかと。

身近に、新型コロナウイルスに感染した人達があります。同僚の家族は、仕事でトンガに赴任しています。私は精神看護学が専門で、コロナ禍で仕事を続けている看護職へのメール相談を、2020年4月から続けています。メールの文面からは苦しく、やりきれない気持ちがあふれています。相談のメールを繰り返し読んで返信を考えるうちに、私たちにできることの少なさに、大きな無力感を感じることも度々です。同僚の力に具体的にになれることは何もなく、情けないと感じる私に、それでも彼らは自分の気持ちを語りかけてくれるのです。逃げないで、出来事の渦中にある人たちの話を聞き、寄り添いたいと思います。

しかし、気持ちだけでは何もできません。私たちを支えるのは看護学の知識です。例えばメール相談では、日本精神保健看護学会が作成した、PFA (Psychological First Aid ; 心理的応急処置) を基盤とした、リモート支援ガイドラインが支えになります。相談してくれたことをねぎらう言葉

を丁寧に述べ、苦悩をもたらしていると思われる、その人が持ち続けてきた正義感や、看護職としての使命感を、言葉にしてフィードバックします。コロナ禍で蓄積されてきた、エビデンスに基づいた信頼できる情報へのリンク先を提示し、自身の安寧を保っていただきたいという思いを伝えます。当事者とともにあり、思いを伝え続けることを支えるのは、知なのです。学術的なキーワードを使うことで、関連する他の学問分野の知識とも統合することができ、連携することもまた可能になります。

会員学会の皆様は、それぞれの現場で状況を支えるために日夜努力を続けておられることと思います。最初は手探りであっても、続けていくうちに実践の知識が生まれます。まずは日々の活動の中でそれらを使うために、知識を言葉にして仲間に伝えるでしょう。その記録を学会内で共有し、誌上发表し、そして学会を超えて共有することにより、異なる切り口で活動している仲間をも支えることができます。疾患や活動の場を超えて有効な知識が共有される場の一つとして、JANAは役割を果たしたいと願っています。

JANAでは、学会のポータルサイトの機能を高め、情報の共有や構築に貢献することを目指したいと考えます。また、会員学会が擁する専門性を、看護職の研修や資格認定にどのように生かしているかというデータを把握し、今後の議論に備えたいと思っています。学術情報の集積と国民との共有・対話を目指す日本学術会議の活動をサポートするための共同事業にも引き続き取り組みたいと思います。日本看護協会からの委託事業を受託し、コロナ禍の社会貢献にも取り組みたいと考えております。

できることを、一つひとつ。知識や技術が、人と人との関りを支えることを信じ、活動を積み重ね、それを会員学会と共有すること。会員学会のお知恵を総動員して、この激動の時代における役割を果たして参りたいと願っております。今後、5月から6月にかけて、情報交換会や社員総会を予定しております。事業計画や財政状況の詳細をご報告し、ご意見を頂戴して、活動をより良くしてまいりたいと願っております。引き続き、皆様のコミットメントを賜りますようお願いいたします。

日本学会・学協会との連携

日本学会・学協会との連携担当理事

西村 ユミ

日本学会・学協会との連携では、公開シンポジウムの共催、後援、協力学術研究団体として、団体としての意見や調査への回答、情報の発信などを行っている。特に今期は、日本学会・学協会の予算立てだけでは公開シンポジウムの開催が困難であることを確認し、情報交換会にて社員学会の皆様と課題と対応を共有し、JANAとの共同事業である公開シンポジウムの開催費用を支援することとした。本年度は2回のシンポジウムに支援を行った。共催および後援した公開シンポジウムは以下の通りである。現代の学術的課題について多分野の専門家の話題提供を受け、多くの社員学会の皆様と議論および課題共有をすることができた。今後の看護学の発展にも寄与する内容であった。

〈共催をしたシンポジウム〉

毎年、日本看護科学学会学術集会の会期中に共催しているシンポジウムについて、本年度は、日本学会・学協会にて議論をしている「『地元創成看護学』の実装—新型コロナウイルス感染症拡大下における看護系大学の活動および地元ステークホルダーとの関係構築と発展」をテーマとし、第41回日本看護科学学会学術集会と共催して2021年12月5日にオンラインで開催した。新型コロナウイルス感染症拡大下における兵庫県内の看護系大学と地元ステークホルダーとの連携・協働を事例として、地元創成看護の取り組みの実際やモデル事業の情報共有し、社会実装のあり方を検討した。オンラインで約150名が参加をした。

公開シンポジウムとしては、健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会等が主催した「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み—子育てをしながら働き、働きながら暮らすための地域共生社会」を12月11日にオンラインで開催した。新型コロナウイルス感染症の拡大抑制下における妊娠・出産・育児、暮らしと住まい、働き方の変化に焦点を当てた話題提供を行い、若手アカデミーからの指定発言を受けて議論した。約150名のオンライン参加に加え、約100名が動画視聴をした。

〈後援をしたシンポジウム〉

健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会他が主催をした公開シンポジウムとして、「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」を、5月23日にオンラインで開催した。コロナ禍におけるフレイル予防と介護崩壊の回避、支援者へのリモートメンタルヘルス支援、多文化地域共生社会の構築に関する提案について報告された。参加者約370名であり、260名へ動画を配信した。

健康・生活科学委員会看護学分科会他が主催をした公開シンポジウム「With/After コロナ時代の看護とデジタルトランスフォーメーション」は、9月25日にオンラインで開催された。コロナ禍で浮かび上がった、健康と暮らしを守り育てるためのデジタルトランスフォーメーションに関わる看護職と、協働する専門家が登壇し、看護ケアの将来像を検討した。参加者は約500名であった。

第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会他が主催した公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ—大学における女性リーダーから見た課題と展望—」は、10月28日に開催された。生命科学分野において極めて少数である女性学長が登壇し、女性学長ならではの視点からジェンダー・ダイバーシティの課題や論点について討論した。同じく、第2弾となる公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ—大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み—」が、12月19日にオンラインにて開催された。ロールモデルとなる大学、学協会の取り組みを紹介し、さらに企業で女性活躍推進に貢献してきた女性役員の登壇者から意識改革について提案を受けた。

日本学会・学協会の科学者委員会学協会連携分科会による調査に協力し、「日本学会・学協会と国内の学協会連合との連携に関する調査」報告会にて、JANAの取り組み報告を行った。

学協会との連携としては、Nursing Nowキャンペーンに関わる情報を社員学会に広く周知すると共に、キャンペーンの終了にあたって活動報告を提出した。

日本医療安全調査機構（医療事故調査・支援センター） における活動

医療安全推進における他機関との協力担当理事

池松 裕子

“医療安全推進における他機関との連携事業”では、日本医療安全調査機構（医療事故調査・支援センター）総合調査委員会メンバーとして、全国から寄せられる医療事故の検証に加わっています。この検証（センター調査と呼

びます）は、医療事故の原因/誘因について探索し、再発防止策を当該医療機関や学会などに提言するものです。対象となるのは、医療事故として全国からセンターに報告された事例のうち、ご遺族あるいは医療機関から調査を依頼

された事例です。調査は、まず総合調査委員会で事前レビューを行った後、個々の事例に対して医師・看護師等から成る個別調査部会を設置して行われます。このとき、日本看護系学会協議会社員学会のうち、協力の意思を表明いただいている学会に看護師の個別調査部会委員の推薦をお願いしています。個別調査は多大な労力を要しますが、看護師委員は患者・家族のアドボケートとして重要な役割を果たすとともに、我が国の看護実践の現状を知る機会にもなります。ぜひ多くの学会にご協力いただけますよう、お願いいたします。

総合調査委員就任以来、いくつかの事例を通して見てみると、看護師の行為が直接の死因となることはあまりない

のですが、看護師がもっとこうしていれば早期発見につながったのでは、と思われる事例はあります。その多くは呼吸数の未測定です。呼吸数の測定はバイタルサイン測定項目として基本的なものですが、多忙な臨床現場では省略されることも多いようです。呼吸数の異常は、院内心肺停止の前兆として複数の論文で有意な関与が示されており、ほとんどの早期警告スコア（Early Warning Score）に含まれています。敗血症を早期発見するQuick-SOFAにも呼吸数の項目があります。一見穏やかそうな呼吸をしても、1分間数えてみると異常値であることも珍しくありません。ぜひ1分間だけ時間を割いて呼吸数を測定するようにしましょう。

わがこととして建設的な議論を行い 大きな絵を描く

高度実践看護師の資格制度構築に向けた活動の推進担当理事

酒井郁子

みなさまこんにちは。今期より表記担当理事となりました。高度実践看護に関して取り組みをはじめているいろいろな発見があり、いまさらながらこれまでの自分の不見識がわが身にブーメランのように帰ってくることを自覚しております。

2022年1月6日に、情報交換会を行いその際に講演3として、今期の取り組みについて、またその背景についてご説明させていただきました。社員学会48学会中33学会から73名の方々にご参加いただきました。

その際のアンケート結果を拝読しました。APN制度について理解が深まったという回答を複数の方からいただき、APN制度構築に向け学会がさらに積極的に関与していく必要を感じたという回答を複数いただきました。また一方で当日の議論にもありましたように、グローバルスタンダードとしてのAPNの定義を堅持することの重要性を指摘してくださった回答もありました。アンケートにご回答くださった皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

この時の議論をもとにして、現在、エビデンス集積のた

めの社員学会を対象とした人材育成と活用の実態調査を企画しております。社員学会のみなさまがこの調査にご協力してくださることにより、対話するための基礎資料となることを目指しています。またCNSなどの高度実践看護師制度にこれまで関わることの少なかった社員学会様におかれましても、看護の質の向上に向けた研修の取り組みを含む人材育成への取り組みを行ってこられた学会様の存在は日本の看護学および看護実践の糧となっていることは言うまでもありません。今回の調査はそのような取り組みにも焦点を当てていこうと考えております。

また看護系学会の協議の場である本会において、1月6日の情報交換会のような対話と議論を繰り返すことにより、看護界として合意可能なひとつの大きな絵を描くことに貢献できると考えております。その大きな絵は、違いを強調するのではなく、多様性を包含し、かつ未来に向かうものだと思います。議論のための議論にとどまらず明日のための羅針盤になるような、着地に向かうような建設的な対話と議論をJANAが発信していければよいと思います。

2022年度 活動計画案

高度実践看護師の資格制度構築に向けた活動の推進担当

社員学会への
調査

- 学会としての人材育成および活用に関する実態およびビジョン
- 4月を予定し、5月速報値、12月報告

諸団体との情報共有と
対話

- APNグランドデザインの構築・実装に向け共有すべき情報はなにか？
- 解決課題の再定義と道筋合意

防災学術連携体の活動&日本看護協会への コロナ関連派遣事業に関する報告

災害看護の学会連携担当理事

吉田俊子

2021年にはいっても新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えず、第5波、第6波と患者数の急増により、医療者の負担や心身への過酷な状況が続いています。医療機関等でケアを行う看護職員は、新型コロナウイルス感染症に罹患する不安を抱え、また差別・偏見も受けるなどの多大な心理的負担を抱えながら看護にあたっています。

JANAでは、日本看護協会の委託を受け、2021年12月より、このような看護職に対するWEBでの相談事業を支援するため、精神看護専門看護師、精神科認定看護師、認定看護管理者等の本事業への参画を募集し、事業につなぐ取り組みを開始しました。本事業は、2022年1月より2023年3月31日まで実施予定であり、メンタルヘルス相談窓口は、毎週土曜日 午後1時～午後6時、相談時間は1相談 30分程度を行っています。

JANAからの呼びかけに、2022年2月末時点で58名の方が登録いただき、面談を行っていただいております。

JANAホームページに募集詳細を掲載しております。事業への参画を希望される方はぜひご確認ください。

https://www.jana-office.com/plaza/entry_img/plaza20211203.pdf

防災学術連携体に、2021年度8月総会後からJANAより吉田が幹事として参画しております。防災学術連携体は、日本学術会議の協力学術研究団体として、防災に関わる多分野の学会が集まり、日本および世界の自然災害に対する防災減災を進め、より良い災害復興をめざすことを目的としています。看護系学会の活動を、異なる分野との情報共有や平常時の交流の活発化につなげていくことを目指して

活動をして参りました。2021年11月6日、防災推進国民大会2021に合わせ、「防災教育と災害伝承への多様な視点—東日本大震災から10年を経て—」のWEBシンポジウムを企画し、11の学協会から発表がありました。また2022年5月9日に日本学術会議公開シンポジウム・第13回防災学術連携シンポジウム「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」が日本学術会議講堂とWEBのハイブリッドで開催されます。この2つのシンポジウムにおいて、看護からは、いずれも日本災害看護学会の発表が行われております。

また、「防災科学の基礎講座」として、一般市民向けの防災講座を募集し、アップロードの場所として防災学術連携体への活用を図っていくこととなりました。

JANAでは①「災害から健康を守るための備え」②「災害後の生活と健康に向けた対応策」③「災害後の健康保持のセルフケア」の3つを各テーマに動画撮影と映像提出(10分程度)が可能な学会を募集し、とりまとめを行って参ります。第一弾の締め切りは4月30日となっており、詳しい内容はJANAホームページに掲載します。ぜひ各学会のご参画をお願いいたします。

さらに、近年のロシアのウクライナ軍事侵攻に伴うJANAの声明について、萱間会長、総務会との協議の上、案を作成して参りました。災害と生活と健康は切り離せず、自体の早期の平和的解決を願ってやみません。

2022年度には上記1事業連絡と併せ、各学会に災害担当者のメーリングリスト更新を呼びかけ、ホームページ「災害関連活動の情報」の改修、情報の更新方法の検討や古い情報のアーカイブ化に取り組んで参りたいと思います。

【役員】

会長

萱間 真美

副会長

上別府 圭子

理事

荒木田 美香子 (看護ケアガイドラインの開発普及の推進)

池松 裕子 (医療安全推進における他機関との協力)

鎌倉 やよい (公的研究費拡大推進)

酒井 郁子 (高度実践看護師の資格制度構築に向けた活動の推進)

眞嶋 朋子 (研究倫理)

吉田 俊子 (災害看護の学会連携)

佐々木 吉子 (会計)

西村 ユミ (日本学術会議・学協会との連携)

山川 みやえ (庶務)

浅野 みどり (広報 (HP管理・ニュースレターの発行))

監事

小松 浩子

村嶋 幸代

—編集後記—

新型コロナウイルス感染症は2019年末に中国武漢市から報告され、2020年1月30日WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」、また3月11日にはパンデミックの宣言を行いました。あれから2年余り、第6波もようやく収まりつつあり3月21日に全国でまん延防止等重点措置が解除されます。一方で、国内の累積感染者数は600万人を超えました(3/18)。人々はマスクの着用や適切な手指消毒、social distanceなど新しい生活様式を受け入れつつも、仕事や生活に不安やストレスを感じている方も少なくなく、孤独感など心のケアの重要性も注目されています。

https://kokoro.mhlw.go.jp/etc/coronavirus_info/

今期の理事会ではJANAの将来構想プロジェクト(リーダー:上別府理事)が立ち上がり、精力的に検討を進めていますので、次号ではその成果もお伝えできると思います。

最後に、2月22日ロシアによるウクライナへの侵攻が勃発し、日本学術会議会長談話(2/28)をはじめ各学会からも次々と抗議の声が上がりJANAも声明(3/14)を出していますが、ウクライナへの攻撃はさらに激化し、子どもを含め民間人の尊い生命が多数失われています。一日も早く紛争が収束することを心から強く願います。(広報担当理事 浅野みどり)

	学会名	理事長	学会連絡先					ホームページアドレス	
			郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail		宛先(担当者)
1	公益社団法人 日本看護科学学会	堀内 成子	113-0033	東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201	03-5805-1280	03-5805-1281	office@jans.or.jp	吉川	https://www.jans.or.jp/
2	一般社団法人 聖路加看護学会	亀井 智子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内	03-3543-6391	03-5565-1626	slnr@slcn.ac.jp	梅崎	http://slnr.umin.jp/
3	一般社団法人 日本がん看護学会	渡邊 真理	550-0001	大阪府大阪市西区土佐堀1丁目1番23号 コウタイ肥後橋ビル3階D号室 日本がん看護学会事務局		06-6447-2877	info@jscn.or.jp	山本 麻理	http://jscn.or.jp/
4	一般社団法人 日本看護学教育学会	大島 弓子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jane@mynavi.jp	脇田 史城	http://jane-ns.or.jp/
5	一般社団法人 日本看護管理学会	坂本 すが	150-0013	東京都渋谷区恵比寿3-29-17 サンシティービル201号室 一般社団法人日本看護管理学会 管理事務所	03-6721-6803	03-6721-6823	kaikai@janap.jp	菊本	http://janap.umin.ac.jp
6	一般社団法人 日本看護研究学会	深井喜代子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本看護研究学会事務局	03-3944-8236	03-5981-9852	g027jsnr-mng@ml.gakkai.ne.jp	竹下 清日	http://www.jsnr.jp
7	一般社団法人 日本救急看護学会	山勢 博彰	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 ㈱へるす出版事業部内	03-3384-8030	03-3380-8627	jaen@herusu-shuppan.co.jp	仲澤	http://jaen.umin.ac.jp/
8	一般社団法人 日本クリティカルケア 看護学会	佐々木吉子	164-0001	中野区中野2-2-3 ㈱へるす出版事業部内	03-3384-8062	03-3380-8627	jaccn_jimu@herusu-shuppan.co.jp	仲澤	https://www.jaccn.jp/
9	一般社団法人 日本公衆衛生看護学会	麻原きよみ	602-8048	京都市上京区下立売通小川東入る西大路 町146番地 中西印刷㈱内	075-415-3661	075-415-3662	japhn@nacos.com	国料 尚子	http://plaza.umin.ac.jp/~JAPHN/
10	一般社団法人 日本小児看護学会	塩飽 仁	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル 株式会社毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jschn@mynavi.jp	後藤 詩郎	https://jschn.or.jp/
11	一般社団法人 日本助産学会	片岡弥恵子	116-0011	東京都荒川区西尾久7-12-16 創文印刷工業株式会社内 一般社団法人日本助産学会事務局	03-3893-0111	03-3893-6611	jam-info@soubun.org	奥田 好紀	https://www.jyosan.jp/
12	一般社団法人 日本精神保健看護学会	安保 寛明	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-japmhn@mynavi.jp	脇田 史城	https://www.japmhn.jp/
13	一般社団法人 日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会	紺家千津子	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル ㈱春恒社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局	03-5291-6231	03-5291-2176	etwoc@shunkosha.com	田中 秀子	http://www.jwocm.org/
14	一般社団法人 日本地域看護学会	宮崎美砂子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 ㈱ワールドプランニング内 日本地域看護学会事務センター	03-5206-7431	03-5206-7757	office@jachn.net	野田 智己	http://jachn.umin.jp/
15	一般社団法人 日本糖尿病教育・看護学会	正木 治恵	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g015jaden-mng@ml.gakkai.ne.jp	片山 涼子	https://jaden1996.com/index.html
16	一般社団法人 日本母性看護学会	石井 邦子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本母性看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g031jsmn-mng@ml.gakkai.ne.jp	大月恵理子 定方美恵子	http://bosei.org/
17	一般社団法人 日本循環器看護学会	眞嶋 朋子	112-0012	東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F 一般社団法人学会支援機構内	03-5981-6011	03-5981-6012	jacn@asas-mail.jp	横川 和代	http://www.jacn.jp/
18	高知女子大学看護学会	野嶋佐由美	781-8515	高知県高知市池2751-1 高知女子大学看護学会係	088-847-5524	088-847-5524	kwuaonaddress@cc.u-kochi.ac.jp	畦地 博子	https://www.u-kochi.ac.jp/~nsgakkai/index.html
19	千葉看護学会	増島麻里子	260-8672	千葉県千葉市中央区袁鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科内	043-226-2426	043-226-2407	cans-adm@umin.ac.jp a-nakazuru@chiba-u.jp	増島麻里子	http://www.cans-net.jp/
20	日本アクション 看護学会	日下 修一	243-0124	神奈川県厚木市森の里若宮9-1 松蔭大学 丸山昭子研究室内	046-247-1511 (大代表)		jadict-office@umin.ac.jp	丸山 昭子	http://plaza.umin.ac.jp/~jadictn/
21	日本運動器看護学会	吉田 澄恵	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-6824-9371	03-5227-8631	jsmn-post@bunken.co.jp s-yoshida@thcu.ac.jp		http://www.jsmn.jp
22	日本家族看護学会	上別府圭子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jarfn@mynavi.jp	北川 瑞季	https://jarfn.jp/
23	日本看護医療学会	浅野みどり	461-8673	名古屋市中区大幸南1-1-20 名古屋大学大学院医学系研究科213号室 「日本看護医療学会事務局宛」	052-719-3158	052-719-3158	info@jsnhc.org	三尾	https://www.jsnhc.org/
24	一般社団法人 日本看護技術学会	深井喜代子	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル9F ㈱春恒社 学会事業部	03-5291-6231	03-5291-2176	jsnas@shunkosha.com	深井喜代子 (東京慈恵会医科大学)	https://jsnas.jp/
25	日本看護教育学会	永野 光子	260-8672	千葉県千葉市中央区袁鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 看護教育学専門領域気付	043-226-2397	043-226-2397	jasne_office@yahoo.co.jp	望月美知代	http://square.umin.ac.jp/~jasne/index.html
26	日本看護診断学会	長谷川智子	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマキレビル ㈱グローバルエクスプレス・国際会議 センター内	03-3352-6223	03-3352-5421	jsnd@convention-access.com	安田 緑	http://jsnd.umin.jp/
27	日本看護福祉学会	生野 繁子	865-0062	熊本県玉名市富尾888番地 九州看護福祉大学看護福祉学部 社会福祉学科 吉岡久美研究室	0968-75-1891	0968-75-1891	kumish@kyushu-ns.ac.jp	吉岡 久美	http://kangofukushi.sakura.ne.jp/

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先					ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	
28 一般社団法人 日本看護倫理学会	八代 利香	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-6824-9378	03-5227-8631	jnea-post@bunken.co.jp	小高 雅美 http://jneanet.net/index.html
29 日本看護歴史学会	丸山マサ美	812-8582	福岡市東区馬出3-1-1 九州大学医学研究院保健学部	092-642-6710	092-642-6710	satanaka@jikei.ac.jp	田中 幸子 http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/
30 一般社団法人 日本災害看護学会	酒井 明子	170-0002	東京都豊島区東鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 榊ガリレオ 学会業務情報化センター内 日本災害看護学会事務所	03-5981-9824	03-5981-9852	g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp	片山 涼子 http://www.jsdn.gr.jp/
31 一般社団法人 日本在宅ケア学会	亀井 智子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F 榊毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jahc@mynavi.jp	北川 瑞季 http://www.jahhc.com/
32 日本手術看護学会	ミルズしげ子	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	03-3813-0485	03-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星 正行 http://www.jona.gr.jp/index.html
33 日本新生児看護学会	内田美恵子	594-1101	大阪府和泉市室堂町840 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター看護部内 日本新生児看護学会事務局	080-4839-0071	0725-55-6701	info@jann.gr.jp	宇藤 裕子 http://www.jann.gr.jp/
34 一般社団法人 日本腎不全看護学会	松木 理浩	170-0002	東京都豊島区東鴨1-24-1-4F 榊ガリレオ 学会業務情報化センター内	03-5981-9824	03-5981-9852	g045jann-mng@ml.gakkai.ne.jp	佐藤 久光 http://ja-nn.jp/
35 日本生殖看護学会	上澤 悦子	144-8535	東京都大田区西蒲田5-23-22 東京工科大学医療保健学部看護学科内 日本生殖看護学会事務局			jsfnjimu@gmail.com	三上 http://plaza.umin.ac.jp/~jsin/index.html
36 日本赤十字看護学会	守田美奈子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	03-5485-5777	03-5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	鎌倉やよい http://plaza.umin.ac.jp/jrcsns/
37 一般社団法人 日本難病看護学会	秋山 智	156-8506	東京都世田谷区上北沢2-1-6 公益財団法人東京都医学総合研究所 難病ケア看護研究室	03-6834-2290	03-6834-2291	office@nambyokango.jp	牛久保美津子 https://nambyokango.jp/
38 一般社団法人 日本放射線看護学会	草間 朋子	036-8564	青森県弘前市本町66-1 弘前大学大学院保健学研究科内	0172-39-5922	0172-39-5922	rnsj@kokusaibunken.jp	木立るり子 http://www.rnsj.jp/
39 日本母子看護学会	齋藤 益子	161-0034	東京都東京都新宿区上落合1-16-7 エスケイビル5F 株式会社厚徳社	03-5348-5018	03-5348-8021	jmica2@gmail.com	関根・松戸 http://nihonboshikango.kenkyuukai.jp/about/
40 日本慢性看護学会	本庄 恵子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内		03-3409-0589	jscicn-office@umin.ac.jp	http://jscicn.com/
41 日本ルーラルナース 学会	大湾 明美	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	0285-58-7512	0285-44-7257	sharu@jichi.ac.jp	春山 早苗 http://www.jasrun.org/
42 一般社団法人 日本老年看護学会	大塚真理子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 株式会社ワールドプランニング内	03-5206-7431	03-5206-7757	office@rounenkango.com	江頭麻衣子 http://www.rounenkango.com/
43 北日本看護学会	塩飽 仁	990-9585	山形市飯田西2丁目2-2 山形大学医学部看護学科内			bureau@njans.net	小林 淳子 http://www.njans.net
44 日本ニューロサイエ ンス看護学会	大久保暢子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学大学院 看護学研究科 大久保研究室内	03-3543-6391	03-5565-1626	nobu-okubo@slcn.ac.jp	大久保暢子 http://www.jann-2012.com
45 一般社団法人 日本フォレンジック 看護学会	加納 尚美	300-0394	茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2 茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 加納尚美研究室内 日本フォレンジック看護学会事務局 阿部 宛	029-840-2181		mail@jafn.jp	阿部 https://jafn.jp/
46 日本産業看護学会	河野 啓子	807-8555	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 産業医科大学 産業保健学部 産業・地域看護学講座内 日本産業看護学会事務局	093-691-7160	093-692-0259	jaohnadmin@mbx.health.uoeh-u.ac.jp	中谷 淳子 http://www.jaohn.com/
47 看護教育研究学会	森 千鶴	305-8575	茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学大学院人間総合科学研究科 看護科学専攻 森千鶴研究室内 看護教育研究学会事務局	029-853-8062	029-853-8062	info@nihonkango.jp	藤森 京子 http://www.nihonkango.jp/
48 日本NP学会	福永ヒトミ	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F 榊毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-np@mynavi.jp	服部 元紀 https://www.js-np.jp/

* 本リストは2022年2月末時点の情報で修正したものです。

変更点等お気づきのことがございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。

* 2020年12月よりJANA事務局を業者委託いたしました。学会連絡先の修正や変更がある場合は、JANA事務局 maf-jana@mynavi.jp にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

